

経営比較分析表

佐賀県 鹿島市

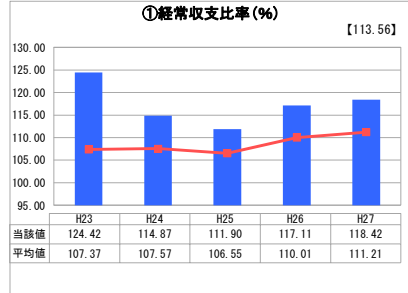
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	64.31	86.87	3,888

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,523	112.12	272.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,374	28.23	934.25

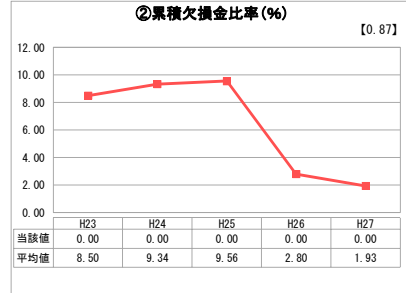
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

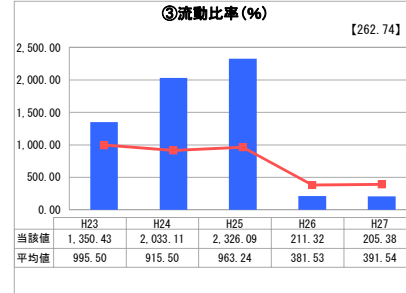
1. 経営の健全性・効率性



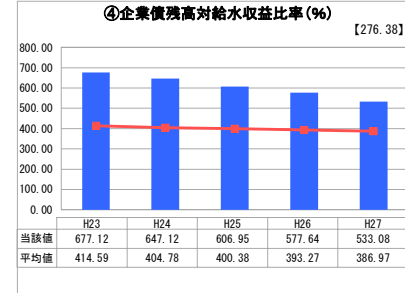
「経常損益」



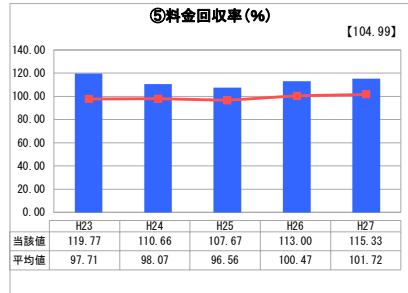
「累積欠損」



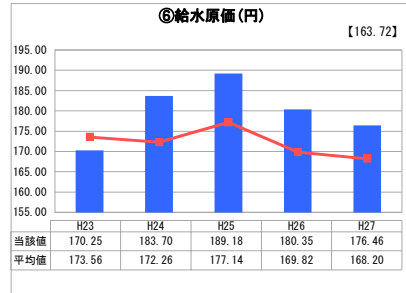
「支払能力」



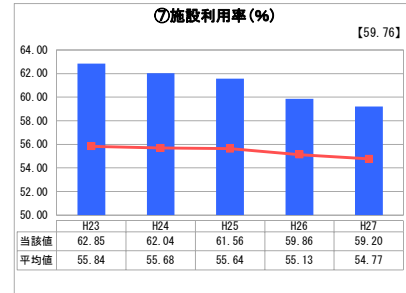
「債務残高」



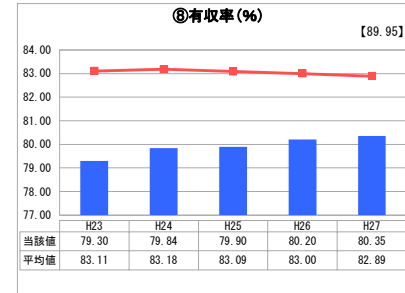
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

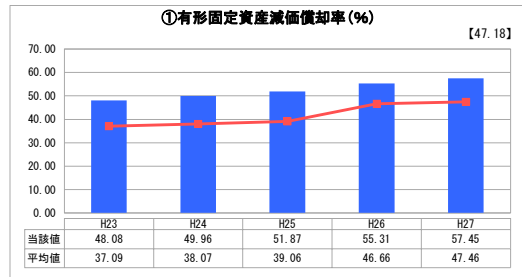


「施設の効率性」

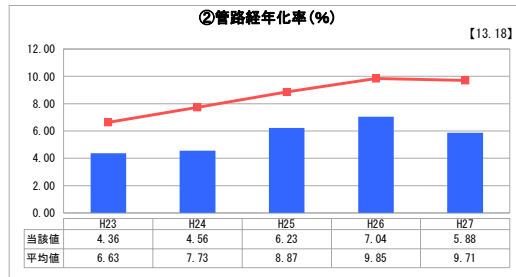


「供給した配水量の効率性」

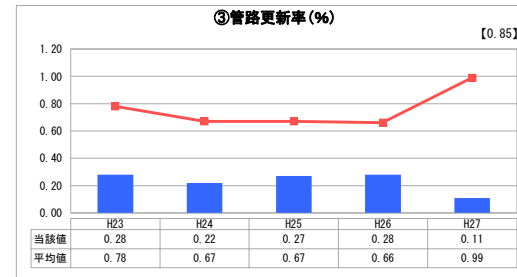
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は昨年度を若干上回り累積欠損金はありません。流動比率の低下は、企業債償還が増加し現金預金が減少したことによりですが、平成29年度以降は企業債償還が減少していくことから、将来的には流動比率は改善されると見込んでいます。給水収益に対する企業債残高は、平均値より高く推移しているものの、着実に企業債残高を減少させており、平均値との差は年々縮小しています。給水原価は平均値との差が年々縮小する傾向にありますが、今後も経営改善に向けた検討が必要となります。有収率は平均値に対して若干低く推移していますが、平成24年度から計画的に給水エリアの漏水調査を行っており有収率は改善傾向にあります。

2. 老朽化の状況について

管路経年化比率は平均を下回るものの、有形固定資産減価償却率は平均を上回る状況で推移しており、今後、耐用年数を超える管の増加を見込んでいます。また、管路更新比率も平均値を下回る数値で推移しているため、企業債償還の負担が軽くなる平成32年度以降は今まで以上の管路更新を図ります。

全体総括

経常収支は黒字で推移しているものの、投資では配水池の改修や耐用年数を経過した管の更新等の課題があるため、今後も経営の健全化・効率性の向上を図る必要があります。このため、アセットマネジメントを用いた中長期の財政計画策定に取組み、計画に基づいた老朽資産更新を着実に進める必要があります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。